上田高ハンドボール班創設70周年
ハンドボールクラブスポ少10周年

元男子日本代表選手の技術学ぶ

上田高校ハンドボール班創設70周年記念と、上田ハンドボールクラブスポーツ少年団創設10周年記念で11日、元ハンドボール男子日本代表の銘苅淳選手（北陸電力ブルーサンダー所属）が講習会を上田市下之郷の自然運動公園総合体育館で行った。

上田高ハンドボール班は1948年創設、頻繁にインターハイに出場した強豪の歴史を持つ。OBの層が厚く、70周年の記念事業でOB会（斉藤和彦会長）は屋外の用具を入れる倉庫を寄付。ハンドボール班の強化事業を考えていたところ、上田ハンドボールクラブ（小田実会長）のスポーツ少年団が創設10周年記念で銘苅選手の講習会を行うことになったことから、OB会とスポ少の両方に関わる中村栄孝さん（インターハイ2回出場）が両方の記念事業として企画した。

斉藤会長は「去年の秋に70周年記念祝賀会をして寄付を集めて活動している。生徒により良いハンドボールを学んでもらいたい」と話す。

午前中はスポーツ少年団が講習を受けた。小田会長は「楽しく講習ができたのが何よりの収穫。楽しくできることが大切で、毎週の練習も喜んで来てもらえるようにしている。ハンドボールは選手全員がシュートでき、決まった時の喜びが味わえる」と話す。

指導する銘苅選手（左）と練習する上田高ハンドボール班

午後のハンドボール班（顧問・宮原秀美教諭）は1、2年生、男子18人、女子12人が参加。男子は1月の県大会で3位になっている。

講習会では、ハンドボール界の松岡修造さんといわれる銘苅選手が、自分のための練習であること、常に全力で挑戦してレベルアップを図ることを強調。ほめとしかる熱血ある指導を行った。生徒は走りながらジャンプしてボールをパスするなど基礎練習で駆け回り、会場に訪れたOBからも、生徒の動きに叱咤激励する声が飛んでいた。